

令和4年
(2022年)
10月

ゆりー



米原区の人口及び世帯数

令和4年9月末現在
戸数 1,100 世帯
人口 2,672 人
男 1,316 人 女 1,356 人

・区の行事予定・

10月

- 4日(火) ミニ・デイサービス
- 11日(火) 千尋会定例会
- 14日(金) 審議委員会
- *コロナの状況を見て判断

11月

- 1日(火) ミニ・デイサービス
- 10日(木) 千尋会グラウンドゴルフ大会
- 11日(金) 審議委員会
- 13日(日) 米原区グラウンドゴルフ大会
- 20日(日) 米原区クリーン作業
- *コロナの状況を見て判断

磯ぎわで船を破(わ)ることは避けましょう!

2年9か月余の長期にわたって人々を苦しめてきたコロナウイルスは、最近、減少の傾向にあるようだ。自由に活動できる時期が、やっと到来したかのように見える。しかし、ここで全ての規制を解いて、奔放に行動していいものか? もう少し慎重に構えたほうがいいのではないだろうか。荒波に翻弄され続けた難破船が、やっとの思いで帰って来た港の入口で、わずかな不注意で船を壊してしまうような愚は避けるに越したことはない。

千尋会からのお知らせ

- ・10月の定例会・・今月より役員のみではなく、全会員対象の定例会です。10月11日(火)午後2時より公民館にて。
 - ・11月の定例会・・グラウンドゴルフ大会を開催いたします。10日午後1時半、どんぐりフレンドパークに集合。
 - ・第15回レクリエーション大会・・11月11日(金)午後1時
場所:うるま市民芸術劇場(響ホール)
- ※見学希望の方は千尋会会長 石川までご連絡下さい。



今月の徴収金

区費	1,000
防犯灯負担金	150
合計	1,150円

ありがとうございます

- ・1班の小谷良輝様より、今年の生年祝いへのご芳志がございました。
- ・7班の比嘉秀章様より、飲み物の寄贈がございました。
- ・2班のチャーチ・チャールズ様より、ご芳志がございました。
- ・3班の福地心一様(浄福寺)より、飲み物の寄贈がございました。

お志の飲み物は、公民館広場整備作業、どんぐりフレンドパークの芝刈り・トイレ清掃作業、ミニデイサービス、千尋会役員会、審議委員会等の参加者や支援者、その他公民館の諸活動にかかわっていただく方々の喉を潤すことに一役買っております。

とてもありがたく、感謝致しております。



区内排水路整備事業工事完了



区内1班から4班にかけての排水路整備工事が、今年の8月26日に完了。去年の工事分と併せて全長360メートルの立派な排水路が完成しました。本事業費の大部分には、防衛省からの補助金が投入されました。うるま市道路整備課の皆さん、ありがとうございました。

大雨の度にオーバーフローし、隣接する野菜畑が冠水していた2班の排水路。今年、6月にうるま市に改善を文書で要請したところ、現況を調査。直ちに排水路のかさ上げ工事に着手し、全長約80mの強固な壁面が完成。農水産整備課の皆さんに感謝です。



☺ どうーちゅいむにー

コロナが減少傾向
カクサン(拡散)もういいでしょう!
| 水戸黄門
コロナウイルス殿

円安で日本経済混乱
ロンヤスは安定していたのに、
| 中曾根康弘元首相
レーガン元大統領殿

白熱の市議選
お会いするのは4年ぶりですネ
| 有権者一同
候補者各位

飼い主さんへお願い
犬の散歩の際は必ず、リードを
つけ、フンは持ち帰りましょう。
公園のゴミ箱は、犬のフンや家庭
からの持ち込みゴミのために設置
したものではありません。
ゴミを分別する際、とても困っ
ています。
ルールはきちんと守りましょう。



～へー、そうだったのか！(パート52)～

一ゆり一のトーチカ7人衆一

トップバッターは、昭和10年10月生まれの7班の名嘉眞トミさん。いつもポニーテールできびきびした動きを見せるトミさんは、自彊術やその他の運動で体を動かすのが大好き。小学生の頃は「ゆーあっちゃー」との呼び声も高く、運動会の隣校リレーでは、いつも学校代表として走ったようだ。元気の源は屋敷の内外の草取り。道路までも守備範囲にしている。乙姫劇団や大宜味小太郎が好きと云うので年相応かと思いきや、エンゼルスの大谷翔平や61本の本塁打を放ったヤンキースのジャッジも大好きだということから、中々モダンなのである。



また、琉球民謡と演歌がお気に入り、特に「湯の町エレジー」は寝ながら毎晩聞いているとのこと。「最近の歌は心に響かない」と云うトミさんは、旅行も大好き。年2～3回、本土は言うまでもなく、台湾、中国なども訪れた。さとうきび作りや他のアルバイトからの収入は、ほとんど旅行につき込んだトミさん。「でも、沖縄が一番いい」と云いながら、「コロナが終わって、公民館でみんなと一緒に体操や踊りをやりたいね～」笑顔で結んでくれた。

続いて、3班の宜野座好子さん。昭和10年11月生まれの好さんは、5人の子、6人の孫を率いる元気なおばあちゃん。野菜作りが得意という好さんは、季節の野菜を市場に出していた縁で農連市場の人達と北海道の雪祭り、九州全県、ディズニーランド等に旅行したり、香港や台湾にも足を運んだり中々の旅行マニアだ。若い頃は裁縫が得意で、子供服も自分で作っていたという好さんは、友達のおしゃべりや色々な集まりへの参加も好きで、人との付き合いを大事にしてきたように見受けられた。



「昔は、食べるものがなかった」と云う好さんは、毎日カンダバーシューシーで腹を満たしていたという。そのような環境で育ったため、食べ物の好き嫌いを云々する余裕はなく、今は毎日の三食がおいしいとのこと。芝居やドラマをテレビで鑑賞することが楽しみだと笑う好さん。「これまで農業で子ども5人を育てられたことに感謝している」と語るその表情からは、「子どもには不自由させたくない一心でいつも頑張ってきた」という強い意志が伝わってきた。

今後の楽しみは、早く孫が生まれ、皆の幸せを見ること、ときっぱり答えてくれた。

1班の小谷良健さんは、昭和10年5月生まれ。4人の子、孫8人、ひ孫1人の賑やかな家族の頂点にいる。魚好きではあるが、和風亭でのステーキや焼き肉、ビールは体と相性がいいようで、それらが自分の血肉となっている、との信念



を持っているようだ。趣味の囲碁は、日本棋院三段の実力者。囲碁の本やテレビでの囲碁番組で熱心に勉強し、お盆や正月には、集まった親戚と昼から囲碁大会を楽しんでいた、と次男の卓也さんは語る。

お酒をこよなく愛する良健さんの元気の源は、「カチューユー」と「孫」。飲んだ翌朝、妻の勝子さんが削ったカツオで作るカチューユーが万能薬となり、元気に出勤もできたようだ。まさに、アメリカユウからヤマトユウ、そして仕上げはカチューユーである。また、孫の誕生が良健さんを禁煙に導いたというが、さすがにアルコールまでの影響力はなかったという。そして、保育園からヤサして帰ってくる孫達に、塩おにぎりを作ってあげていたほど孫思いの良健さんは、屋号「アッチャーウクク」が表すように、中学・高校の頃は、学校代表になるほど足が速かった由。また、仕事で忙しい中、学校のPTA活動にも積極的に参加していたようだ。

7班の奥間政仁さんは、昭和10年5月生まれ。妻和子さんとの間に3人の子、孫10人、ひ孫が8人、嫁や婿を含めると27人の大所帯の大將である。食べ物の好き嫌いはなし。趣味は三線、胡弓、太鼓だが、太鼓を始めたきっかけが振るっている。



ある時、肩を骨折した政仁さん。「病院シカヌー」の政仁さんは、自分で直そうと腕を上げ下げしてリハビリに励んでいたようだ。それを知った知人が「その運動には、太鼓がいいよ」と勧められたことでバチを握るようになったという。高じて「幸太鼓の会」の師範にまで上り詰める。「風が吹けば桶屋がもうかる」と云うが、「骨を折って太鼓の達人になる」と転回した政仁さんの人生は面白い。

政仁さんの一番の思い出は、米国ニューヨークのカーネギーホールで「世界民族芸能フェスティバル」が開催された折、沖縄県代表で太鼓の妙味を披露したことだ。太鼓(テーク)がもたらした幸運とでも云おうか、アメリカ人とのギブアンドテークで沖縄の民俗芸能に太鼓判が押されたのは確実だろう。

7班の比嘉ノブさんは、昭和10年8月生まれ。子が5人、孫6人のノブさんのいつも元気でいられるコツは、お風呂に入ることだ云う。掃除が得意というノブさんは、「ありがとう」というのが口ぐせ。日頃、健康でいられるのは、毎日の食事を3食ともしっかり摂ることだ云う。花を眺めていると心が落ち着くというノブさんの人となり家族はどのように見ているか。返ってきた答えは、「ゆんたくおばあ～、がーじゅーおばあ～」だった。総じて、年齢を重ねた女性は、「ゆんたくー」になり、そして「がーじゅー」になることを思えば、特に変わっているとは云えないのかも知れない。今、楽しみでやっていることは？の質問には、かりゆし園での生活で、体操、輪投げ、お風



呂、そしてマッサージだと返ってきた。今後に望むことは、という問いには「健康を維持し、更に孫が元気であること」と答え、「年寄りに気軽に話し掛けて欲しい」とも付け加えた。

4班の石川信子さんは、昭和10年10月生まれ。マグロやサーモンの刺身、焼き芋が好きで、カレーは好まないという信子さんは、9人の子、17人の孫、ひ孫7人の中心にいる。島倉千代子、美空ひばり、田端義夫らの歌をカラオケで唄うのが大好きという信子さんは、年に1～2回、旦那様と一緒に国内外の旅行を楽しんだようである。子や孫の顔を見ることが元気の源と云う信子さん。畑仕事(野菜作り)が十八番で、足が丈夫な78歳ごろまでは、自ら運転する軽トラで石川の楚南にある畑に通い、無農薬のゴーヤー、オクラ、シブイ、キャベツなどを育て、子や孫の食卓を賑わせていたという筋金入りのベジタブルメーカーなのだ。



穏やかな性格で口数も少なく、いつも相手の話をニコニコと笑顔で聞いている信子さん。お母さんはどんな人？と娘さんに問うと、次のように返ってきた。「母は、子どもたちへの愛情が深く、元気な頃は、「遊びに行くネ」と連絡すると、自家製のコロッケ、ウムクジ天ぷら、みそナントゥームーチー(いずれも絶品)などを作ってくれた」と云う。続けて、「今は足腰が弱り施設で過ごしているが、今まで沢山働いた分、今後はのんびり過ごして欲しい。コロナが落ち着いて面会できるようになったら、毎日のように皆で会いに行くからネ」と締めてくれた。

7班の比嘉秀章さんは、昭和10年10月、比嘉家の長男として生まれる。好き嫌いはなく、何でもござれの秀章さん。とても柔和ではにかみ屋の秀章さんの趣味はスポーツ鑑賞と云うが、「畑仕事、働くことが趣味ヨ」とから奥様があれこれと詳説する。若い頃は、米軍に7年ほど勤めたり、色々な仕事を経験したようだが、そのうち、馬、牛、ヤギ、豚、鶏などを飼っていた父母の手伝いをやるようになったと云う。得意なことは特になく、健康の秘訣はと聞くと、これまた「働くこと」と返ってきた。ゆいまーるを意気に感じ、「何でも分け与えるのが好きヨ」と奥様からのコメント。「働くこと」以外の趣味を聞くと、「旅行」の二文字が引き出せた。隣近所の人との旅行やピクニックを通して、交流を深めてきたとのこと。花などの展示会があると聞けば、友達とピクニックを兼ねて出かけたりするという。サトウキビの収穫が終わって後、隣近所の人と北海道を除く日本全国各地を旅行したと云う秀章さんに、今後の楽しみを聞いてみると、「いつまでも健康で、妻と好きな野菜と花づくりをして穏やかに暮らしたい」とのことでした。



～へー、そうだったんだ！～